

## 令和 7 年度 大学活性化経費 事業成果報告書

事業区分 (2) (3) (5)

申請組織 生活科学部

申請組織長 役職名 生活科学部長 氏名 藏澄 美仁

統括責任者 役職名 生活科学部 准教授 氏名 井澤 幸

課題名 産学官・産学福連携による SDGs とデザインに関わる一連の活動

	役割	氏名	所属・役職名	役割分担
事業組織	統括責任	井澤 幸	生活科学部・准教授	事業の統括と実施（産学福連携部分）
		村上 心	生活科学部・教授	事業の統括と実施（産学官連携部分）
		高橋 里佳	生活科学部・助教	事業の実施（公開建築イベント部分）
		竹田 和行	生活科学部・助教	事業の実施（公開建築イベント部分）
		丹羽 健太郎	教育学部・准教授	事業の実施（産学福連携部分）
	原田 さとみ	NPO 法人フェアトレード名古屋ネットワーク前代表	事業協力	

## 1. 事業開始の背景・経緯や目的等（200 字～300 字程度で記述）

本事業の目的は、産学官および産学福の連携によるエシカル（アップサイクル・フェアトレード）製品の開発、及び開発製品の周知や販売を行うこと、また、本学科の特色であるデザイン力とモノづくりを通して、エシカルや SDGs 関連の啓発活動を行い、社会課題に主体的に関わる教育を実践するものである。

本事業は 3 本の柱で構成されている。①行政や民間、他大学、海外と連携し、製品開発や啓発活動を行う取り組み（村上担当）、②行政・福祉施設（名古屋市・就労支援事業者・児童発達支援センター）と連携し、アップサイクル商品の開発や、障害者への理解について啓発活動を行うもの（井澤・丹羽担当）、③行政・企業・他大学と連携し、住み続けられるまちを目指し、歴史的建築を再評価する活動である（井澤・村上・高橋・竹田担当）。いずれもこれまでの事業実績がある。

## 2. 事業方法（特色・独創性）等（300 字程度で記述）

**事業①** 沖縄における都市緑化の促進を目指し、講演会において、専門家や地域の意見を聞きながら、今後の課題を検討した。講演会開催に向け、「建築緑化と気流シミュレーション」と題して、村上研究室の学生が研究成果を発表し、話題提供を行った。

**事業②** 発達障害啓発プロジェクト 2025（2025.4-6）へ参加した。子どもたちの作品の装丁、展示デザイン、施工を実施した。発達障害啓発プロジェクト 2026（2026.4-6）に向け、児童発達支援センター（さわらび園）の子ども達との作品作りに参加し、展示デザインの具体的提案を行った。アップサイクル商品の企画・開発・制作は、子ども用スモックのリニューアル、エシカル系イベントにおいて、エコバックづくりワークショップ、ガーランドづくりワークショップを開催した。

**事業③** なごや建築まつり 2025 を実施した。建築公開に向け、関係者へのヒアリング、展示やレクチャー用の資料作成を行った。

### 3. 事業の成果 (600字～800字程度で記述)

#### 事業① 行政や民間企業と連携し、地球環境に関する啓発活動を行う取り組み

2025年12月に、沖縄におけるグリーンインフラの可能性について「台風防災と建築・都市緑化」をテーマに沖縄市で建築緑化シンポジウムを行った。研究報告として、椛山女学園大学村上研究室大学院生が「建築緑化と気流シミュレーション」について発表を行った。その他、共同研究者である名古屋工業大学、琉球大学の研究室の学生も参加し、意見交換を行った。参加者は22名である。

#### 事業② 民間企業や福祉施設と連携しアップサイクル商品の開発や発達障害への理解を深める活動

2025年4～6月に「名古屋市発達障害啓発プロジェクト2025」に参加し、アールブリュットによる星が丘テラスでの大型看板のデザイン、東山スカイタワーでの子どもたちのアート作品の展示デザイン・施工を行った。子どもたちのアート作品は教育学部と生活科学部の学生が協働で、児童発達支援センターの親子とワークショップにより制作した。期間中、約85,000人の来場者があり、多くの方に発達障害をもつ子どもたちの作品を目にいただいた。本事業により、障害児教育、プロダクト・空間デザインの大学での学びを活かした活動が展開できた。

アップサイクル商品の企画では、本年度は子ども用スモックのリニューアルを主として行い、10月のSDGs AICHI EXPOでファッションショーとして披露した。その他雑貨などの制作を含め合計100mの未利用布を商品化することができた。

#### 事業③ 行政・企業・他大学と連携し、住み続けられるまちを目指し建築を再評価する活動

2025年11月に愛知県の建築系10大学と連携し建築公開イベント「なごや建築まつり2025」を開催した。名古屋城、第2名古屋三交ビル、名古屋市美術館など30施設を公開し、学生によるガイドツアー等を開催した。本事業に参加している生活環境デザイン学科4研究室は8箇所の施設を担当し、AR技術を使った展示や、本学能楽部との連携ワークショップなど、趣向を凝らしたイベントを各施設で行った。期間中、名古屋能楽堂を会場に「まち歩きと建築—そして名古屋の景観を考える」、浅沼組名古屋支店では「まちをつくるしくみとデザイン」をテーマに2度の講演会を行った。講演会スタッフを本学学生が務め、建築やまちづくりへの知識を深めるとともに、貴重な建築への見学機会を提供できた。来場者は延べ700名、来場者アンケートからは、「学生の丁寧な説明が良かった」等の好意的な意見が寄せられた。

### 4. キーワード (本事業のキーワードを1つ以上8つ以内で記載)

①都市緑化	②防災	③発達障害	④アールブリュット
⑤アップサイクル	⑥エシカル	⑦建築公開	⑧建築まつり

### 5. 事業の達成状況及び今後の課題 (事業の達成状況を踏まえて、課題、反省点、及び今後の取組みを具体的に記載すること。また、イベント等実施の場合はその参加人数(外部・内部)についても明記すること。)

事業① 講演会での意見を踏まえ、各研究室が調査や実験を行い、継続して研究発表の場を設けていくことが必要である。

事業② 東山スカイタワーの集客能力により、多くの方が作品を目にする機会を得た。ただ、星が丘エリア全体で、この時期、発達障害への理解を深めるイベントとして今後さらに展開していくためには、面的な広報が必要である。今後は星が丘エリアの入口である、星が丘三越や星が丘テラスでも子どもたちのアート作品を広報するような取り組みを検討している。

アップサイクル商品の企画については、商品企画だけでなく、エシカル消費の啓発を次なる目標に据え、学園全体での連携を模索していきたい。

事業③ 来場者アンケート(回答数88)からは、建築公開の意義を理解し、継続を望む声が多かった一方、広報の不十分さやチケット販売の不便さが指摘された。これらの点を改善すること、またより、公開建築のバリエーションを増やしていくことが今後の目標である。